

# マツ並木の土塁を調べる(前編)

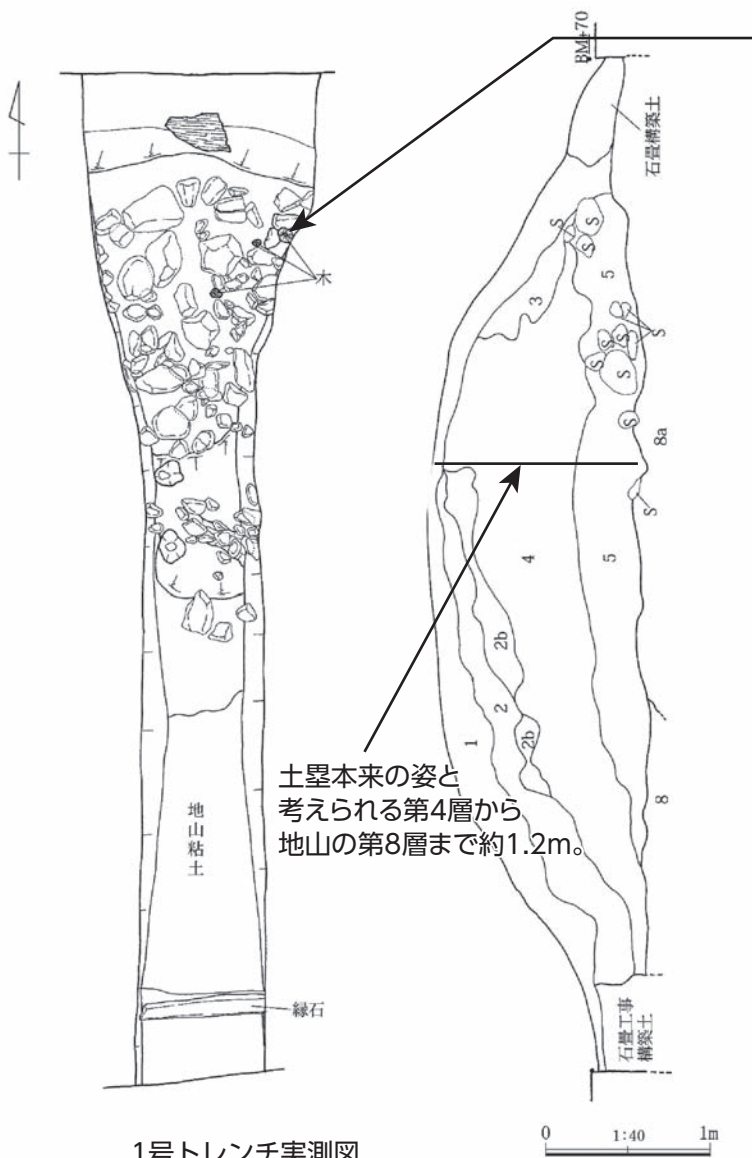
今回は、アカマツの根系調査において、掘った土塁の一部から、こぶし大の多くの川石が確認されたが、この理由については、文献等の史料でも明らかでなく、また、土塁の学術的調査なども行っていないことから、土塁の役割や機能及び時代区分等を解明するために実施した土塁の発掘調査の概要を2回にわけてお伝えします。



1号トレンチの全景  
(土層堆積状況 西面)

## 1号トレンチの様子

笠取峠側の比較的高い土塁に設定した1号トレンチは、6層に大別することができる。第2層は公園造成時などに盛り土されたものと考えられます。文献調査の成果と併せて考えると江戸後期の築造と推定できる土塁本来の盛土を確認することができました。



1号トレンチ実測図

第5層中からは、こぶし大から人頭大ほどの石が多く検出された。



### 土層説明

- 第1層・第3層表土層 (腐葉土層)。
- 第2層 (含2b層) 土塁の形状を整えるために、公園造成時などに盛り土されたものと考えられる。ジュースの空缶やビニールひもなどが出土。
- 第4層・第5層土塁本来の姿と考えられる層。堅固な土層堆積で、第4層中から現代遺物の出土は無かったが、また、近世遺物の検出も皆無であった。第5層中からは、黒耀石製石器や土器片が検出されている。
- 第8層 (含8a層) 粘性しまりの強い、地山となる層